

家庭菜園

Q & A

問題解決!



農産部 担い手課 営農主幹  
検校 哲也

今月より家庭菜園Q&Aコーナーを担当させていただきます。検校と申します。

組合員の皆様にとつての農に関する疑問が解消され、家庭菜園や農業が少しでも楽しくなるようなコーナーを心がけてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

**Q1** トウモロコシの害虫を農薬を使わずに防げないですか。

**A1** トウモロコシの栽培でやっかいな害虫がアワノメイガです。夏になると幼虫が子実や茎も食べてしまいます。雄穂を切つてしま

うのも防除の一つです。

アワノメイガの成虫は、トウモロコシの雄穂に誘われて飛んできます。そこで、茎の先端に伸びた雄穂を開花直前に切ります。10株に1株残して他は切り落とします。残った1株が開花したら、雌花に花粉を振りかけます。雄穂を残し過ぎるとアワノメイガが集まってくるので、10分の9は切り捨てます。

種まき時期をずらして被害を防ぐ手もあります。被害のピークは夏ですので、超早まき(三月)で七月上旬に収穫。七月下旬まきで十月下旬に収穫する方法もあります。早まきは育苗から定植直後の保温が必須です。遅まきは台風に備えましょう。

**Q2** 家庭菜園におすすめの野菜はありませんか。

**A2** 定番は、トマトやキュウリでしょう。話題の珍しい野菜にチャレンジするならば、簡単に早く収穫できるベビーリーフはどうでしょうか。



プランタでベビーリーフ栽培

●ベビーリーフ

レタス、水菜、ほうれん草など、発芽から30日ほどの若い葉をちぎってそのまま食べるのがベビーリーフです。栽培が簡単で短い期間で育ち、スペースを取らず密に植え

付け可能と、手軽さで一番の野菜です。

サカタの「スピーディーベジダブル」シリーズには、数種類のベビーリーフがあります。また、初めからミックスされた種も市販されています。収穫も早く、葉が混み合ってきたら、間引きを兼ねて収穫して、食べながら育てることが出来ます。

●ミニトマト

家庭菜園で一番人気はトマトかもしれません。トマトでも、ミニトマトならプランターで栽培でき、次々と実がなつて長い期間楽しめます。

「アイコ」、「干果(ちか)」といった品種が無難ですが、もつと甘いミニトマトも出てきました。やや縦長のプラム型の「シュガープラム」といった品種もあります。

水はけをよくして乾燥ぎみに育てると、いっそう糖度が高く甘い果実ができます。キュウリやトマトなどは、種から育てるより苗を買つてきの方が失敗が少ないですよ。

**Q3** 種からスイカを作りたのですが、ポイントは何？

**A3** スイカの発芽適温は25〜30℃で、最低でも15℃ないと芽が出ません。電熱発芽器を使えば確実です。育苗には、ビニールやキャップを被せるなど十分な保温対策が必要となります。

ポットに3〜4粒をまき、本葉が2枚開いたところから間引きして、1本の苗に育てます。15℃を下回らないように保温しながら一カ月、本葉が5枚になったら植えつけます。ぜひ、チャレンジしてください。



発芽育苗器